

PMによる研究開発機関の追加について

平成 30 年 7 月 5 日
革新的研究開発推進プログラム担当室

PM が、新規研究開発機関（PM との利害関係機関ではない）の追加を行う場合には、事務局においてその必要性等を整理した上で ImPACT 有識者会議に確認を求めるととされているところ。

今回、以下の 3 名の PM から申し出のあった以下の研究開発機関の追加について、その必要性等が認められるため、持ち回りによる確認とさせていただきます。

1. 研究開発機関の新規追加

PM	実施プロジェクト	研究開発機関名	研究代表者名	申請理由
山川 PM	脳情報インフラ	慶応大学	清水勝彦	将来の脳情報サービス産業の創出基盤となる、脳情報クラウドを構築するため、現在、脳の健康の維持・増進に資する可能性がある様々な生活行動や社会活動と脳の MRI データとの相関解析等に取り組んでいるが、新たに「健康経営」に取り組む民間企業等から最大 100 名程度の MRI データを取得・解析し、同クラウドの拡充を図る。同取得・解析については、これまで健康経営等に関して国内で最も優れた学術研究の実績等を有する左記研究機関を追加する。
山川 PM	脳情報インフラ	京都大学	山田忠志	上記脳情報クラウドの拡充を図るため、新たにヘルスケアツールズ分野における（インバウンド観光客等）最大 100 名程度の脳の MRI データの取得・解析を行う。また、ヘルスケアツールズに関する健康効用等の知見や脳血流研究等について有数な実績を有する左記研究機関を追加する。
山海 PM	サイバニックインターフェース研究開発、サイバニックデバイス研究開発	株式会社 FiNC	小林尚生	本プログラムで開発されたサイバニックデバイスの活用などを通じて、重介護者の自立化を加速支援するための食事・栄養管理用デバイスを研究開発し、それら食事・栄養管理情報と各種デバイスから得られた生体情報等を高度に統合解析することにより、重介護者及び高齢者の包括的なシステムを構築する。当該研究開発の遂行により、腰 HAL 等による運動訓練と適切な栄養素摂取を組み合わせることで従来以上の機能回復が期待できる。機関選定は公募（公開ワークショップを開催し、16 社・機関から提案を受け付）し、食事と健康に関して膨大なデータを有し、食事画像から摂取栄養を推定する深層学習に関して極めて高い技術を有する左記機関を選定した。

PM	実施プロジェクト	研究開発機関名	研究代表者名	申請理由
山海PM	サイバニックインターフェース研究開発、サイバニックデバイス研究開発	アジュールパワー株式会社	成田秀展	<p>本プログラムで開発されたサイバニックデバイスの活用などを通じて、重介護者の自立化を加速支援するための生活情報の常時計測とデバイス情報の送受信機能（システムの情報通信のハブ機能）を有するデバイスを研究開発する。それらの常時情報と腰HAL等の運動訓練情報等を高度に統合解析することにより、重介護者及び高齢者の機能向上システムを構築する。運動訓練前後の生活情報を本デバイスで計測することで、効果的な運動訓練の新たな方法等の発見も期待できる。機関選定は公募（公開ワークショップを開催し、16社・機関から提案を受付）し、当該研究に必要な基本仕様の設計図及び金型を有し、IoTデバイスの開発経験に優れた実績を持つ左記機関を選定した。</p>
佐野PM	レーザー加速電子の応用	島根大学	荒河一渡	<p>本プログラムの研究成果である「レーザー加速電子線」の産業応用のひとつとして、電子顕微鏡(TEM)への応用可能性を実証検証する。左記研究者はTEMを使用した材料研究の第一人者であり、レーザー加速電子線の応用実験の経験を持つ世界でも数少ない研究者であり、最適な人材である。</p>

以上